

2018(平成30)年9月 実施

# 第47回

## 足立区政に関する世論調査

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／  
健康／スポーツ／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／  
「孤立ゼロプロジェクト」など／協働・協創／区での取り組み

2019(平成31)年3月



足立区

## はじめに

平成30年9月に実施した「第47回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりました。毎回、無作為に抽出した3000人の区民の皆様にご協力をお願いしています。ご回答くださった方々に心より御礼申し上げます。

足立区では、区の施策や事業を公募による12人の区民が評価する「区民評価制度」に力を入れています。評価にあたっては、目標とする具体的な数値指標を設定しています。その実現に向かって日々努力することで、区政の進展と透明性を図るためです。

本世論調査の結果は、区政評価の基本的な指標となる大変重要な数値であると同時に、今後の区の進むべき方向性を示す羅針盤の役割を果たします。

数字として現われた、区民の皆様のお声を真摯に受け止め、改善が必要な部分は改善を、さらに強化すべきところは強化し、区政を進めてまいります。

平成31年3月

足立区長 近藤 やよい



# 目 次

<b>第1章 調査の概要</b> .....	1
1. 調査の目的.....	3
2. 調査の内容.....	3
3. 調査の設計.....	3
4. 調査地域.....	4
5. 調査方法.....	5
6. 回収結果.....	5
7. 報告書の見方.....	7
8. 標本構成.....	10
<b>第2章 調査結果の要約</b> .....	15
1. 定住性.....	17
2. 大震災などの災害への備え.....	18
3. 洪水対策.....	19
4. 区の情報発信のあり方.....	20
5. 健康.....	21
6. スポーツ.....	22
7. ビューティフル・ウィンドウズ運動.....	24
8. 環境・地域活動.....	25
9. 「孤立ゼロプロジェクト」など.....	26
10. 協働・協創.....	27
11. 区の取り組み.....	28
<b>第3章 調査結果の分析</b> .....	35
1. 定住性.....	37
(1) 居住地域の評価.....	39
(2) 居住地域評価の経年比較.....	54
(3) 地域の暮らしやすさ.....	61
(4) 特に暮らしにくいと感じること.....	67
(5) 定住意向.....	71
2. 大震災などの災害への備え.....	79
(1) 備蓄や防災用具などの用意.....	81
(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容.....	85
(3) 備蓄量.....	90
(4) 災害発生時の水や食料の確保.....	96
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策.....	99
(6) 対策をしていない理由.....	102
(7) 地域の避難場所の認知.....	105

(8) 避難場所の認知経路	107
(9) 大規模災害時の避難生活場所	109
(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	111
3. 洪水対策	117
(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知	119
(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処	122
(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先	129
4. 区の情報発信のあり方	133
(1) 区の情報の入手手段	135
(2) 必要とする区の情報	140
(3) 必要な時に必要とする区情報の入手状況	144
(4) 区の情報得られない理由	146
(5) 区の情報得られない理由の詳細	148
5. 健康	149
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況	151
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	153
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況	156
(4) 1日野菜 350g以上の摂取	158
(5) 体調や習慣	160
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	166
(7) がん検診制度の感想	169
6. スポーツ	171
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況	173
(2) 継続的に実施している運動・スポーツ	175
(3) 運動・スポーツを行っている場所	178
(4) 障がい者スポーツへの意識・行動	180
(5) スポーツボランティア活動への意識・行動	182
(6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること	184
(7) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無	187
(8) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動	189
(9) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ	192
(10) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識	194
7. ビューティフル・ウィンドウズ運動	197
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	199
(2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み	203
(3) 『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況	207
(4) 治安が改善していることの認知	211
(5) 居住地域の治安状況	214
(6) 区内の治安が良いと感じる点	218
(7) 区内の治安が悪いと感じる点	221

(8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	225
(9) 駐車時の鍵かけ状況	229
8. 環境・地域活動	235
(1) 環境のために心がけていること	237
(2) 「食品ロス」という言葉の認知	240
(3) 食品ロス削減のために心がけていること	242
(4) この1年間に参加した活動と今後の参加意向	244
9. 「孤立ゼロプロジェクト」など	251
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	253
(2) 「地域包括支援センター」の認知状況	256
(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	259
(4) 協力意向がある活動内容	262
10. 協働・協創	265
(1) 「協創」の認知	267
(2) 協働・協創の実践	269
(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価	270
11. 区の取り組み	273
(1) 満足度と重要度	275
(2) 区政への区民意見の反映度	315
(3) 区に対する気持ち	318
(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）	336
(5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	339
(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	344

<b>第4章 使用した調査票</b>	<b>347</b>
--------------------	------------



# 第1章 調査の概要



## 1. 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

## 2. 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 協働・協創
- (11) 区の取り組み

## 3. 調査の設計

- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域     | 足立区全域                 |
| (2) 調査対象     | 足立区在住の満20歳以上の男女個人     |
| (3) 標本数      | 3,000サンプル             |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法   |
| (5) 調査期間     | 平成30年9月1日(土)～9月25日(火) |
| (6) 調査機関     | (株) マーケティング・サービス      |

4. 調査地域

図1 地域区分図

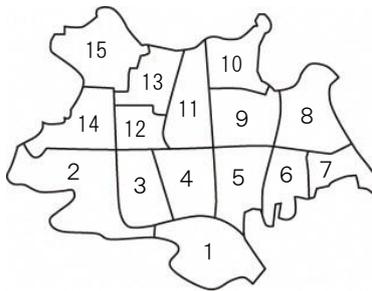


表1 調査地域一町丁目対応表

地域名	地区町丁目名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

## 5. 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）  
 (2) 調査票 4章の調査票を使用

## 6. 回収結果

- (1) 標本数 3,000票  
 (2) 有効回収数 1,665票 有効回収率 55.5%  
 (3) 回収不能数 1,335票 回収不能率 44.5%

- (4) 地域別回収結果

表2 調査地域別回収結果

地域名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	576,989	100.0%	3,000票	1,665票	55.5%
第1地域	65,895	11.4	341	211	61.9
第2地域	41,110	7.1	214	132	61.7
第3地域	34,515	6.0	180	96	53.3
第4地域	49,460	8.6	258	155	60.1
第5地域	52,313	9.1	272	140	51.5
第6地域	37,408	6.5	195	110	56.4
第7地域	27,613	4.8	144	80	55.6
第8地域	46,190	8.0	240	127	52.9
第9地域	37,532	6.5	196	105	53.6
第10地域	27,335	4.7	142	70	49.3
第11地域	47,532	8.2	248	132	53.2
第12地域	23,971	4.2	125	61	48.8
第13地域	28,258	4.9	147	91	61.9
第14地域	31,644	5.5	165	86	52.1
第15地域	26,213	4.5	133	67	50.4

(20歳以上人口は平成30年8月1日現在)

※有効回収数のうち2票は地域不明

## 第1章 調査の概要

### (5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000票	1,665票	55.5%
男性（計）	1,522	744	48.9
20 代	235	59	25.1
30 代	230	86	37.4
40 代	301	129	42.9
50 代	248	129	52.0
60 代	204	129	63.2
70歳以上	304	212	69.7
女性（計）	1,478	908	61.4
20 代	221	77	34.8
30 代	201	110	54.7
40 代	280	183	65.4
50 代	227	162	71.4
60 代	188	143	76.1
70歳以上	361	233	64.5
無 回 答		13	

(注) この表での無回答は「性」の回答がなかったサンプルの数を掲載している。なお、平成30年度調査では、「性」を回答していても「年代」を回答していないサンプルはみられなかった。

## 7. 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における『そう思う(計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載とする。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問4の「あなたは、足立区に今後も住みたいと思いますか」という質問に対して、「当分は住みたい」と答えた人は、1,665人のうち41.6%であった。

回答者数が1,665人、回答の比率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.40%であるから、「当分は住みたい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の44.0%から39.2%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

<p>b = 標本誤差  N = 母集団数 (足立区の20歳以上人口)  n = 比率算出の基数 (回答者数)  P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)</p>
--

第1章 調査の概要

〈 早見表 〉

回答の比率 (P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,665	± 1.47	± 1.96	± 2.25	± 2.40	± 2.45
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,665	± 1.47	± 1.96	± 2.25	± 2.40	± 2.45
男性 (計)	744	± 2.20	± 2.93	± 3.36	± 3.59	± 3.67
20 代	59	± 7.81	±10.42	±11.93	±12.76	±13.02
30 代	86	± 6.47	± 8.63	± 9.88	± 10.57	±10.78
40 代	129	± 5.28	± 7.04	± 8.07	± 8.63	± 8.80
50 代	129	± 5.28	± 7.04	± 8.07	± 8.63	± 8.80
60 代	129	± 5.28	± 7.04	± 8.07	± 8.63	± 8.80
70歳以上	212	± 4.12	± 5.49	± 6.29	± 6.73	± 6.87
女性 (計)	908	± 1.99	± 2.66	± 3.04	± 3.25	± 3.32
20 代	77	± 6.84	± 9.12	±10.45	±11.17	±11.40
30 代	110	± 5.72	± 7.63	± 8.74	± 9.34	± 9.54
40 代	183	± 4.44	± 5.91	± 6.78	± 7.24	± 7.39
50 代	162	± 4.71	± 6.29	± 7.20	± 7.70	± 7.86
60 代	143	± 5.02	± 6.69	± 7.66	± 8.19	± 8.36
70歳以上	233	± 3.93	± 5.24	± 6.00	± 6.42	± 6.55

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

## (9) 分類した項目の定義

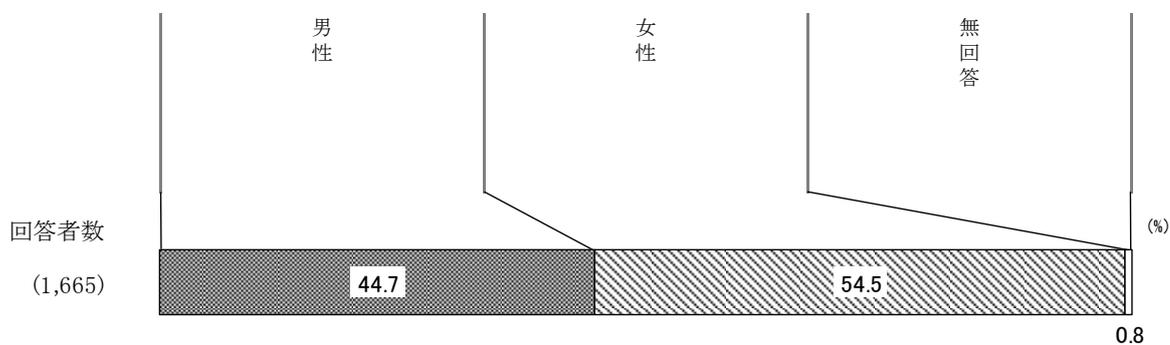
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地 域 別……（15カテゴリ）
- ② 性 別……（2カテゴリ）
- ③ 性・年代別……（12カテゴリ）
- ④ ライフステージ別……（7カテゴリ）
  - ・独身期 40歳未満の独身者
  - ・家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
  - ・家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
    - （家族成長小学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
    - （家族成長中学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
  - ・家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
  - ・家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
  - ・高齢期 本人が65歳以上の人
    - （一人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らしの人
    - （夫婦二人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
    - （その他の高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
  - ・その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
    - （壮年独身者） 本人が40歳～64歳で独身
    - （壮年夫婦のみ者） 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ 住 居 形 態 別……（8カテゴリ）
- ⑥ 職 業 別……（8カテゴリ）
- ⑦ 就労（就学）場所別……（6カテゴリ）
- ⑧ 居 住 年 数 別……（5カテゴリ）

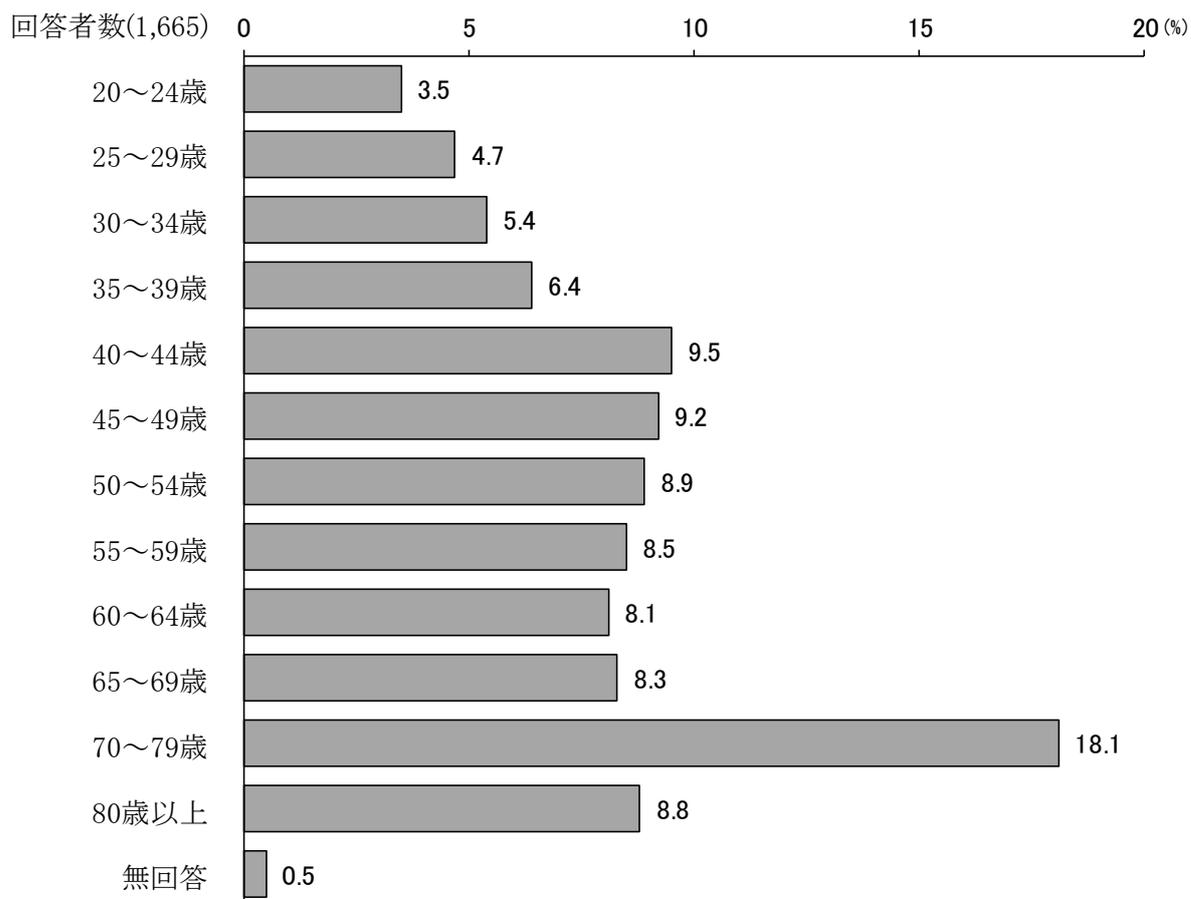
※本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

## 8. 標本構成

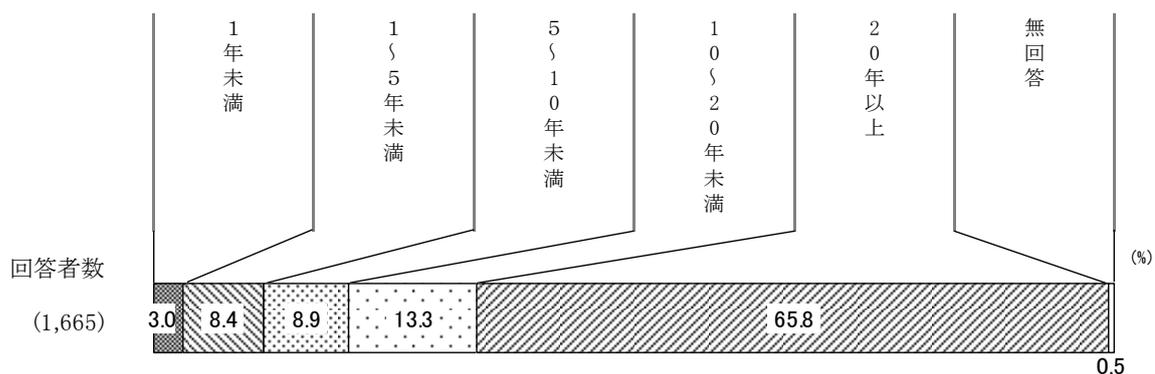
### F1 性別



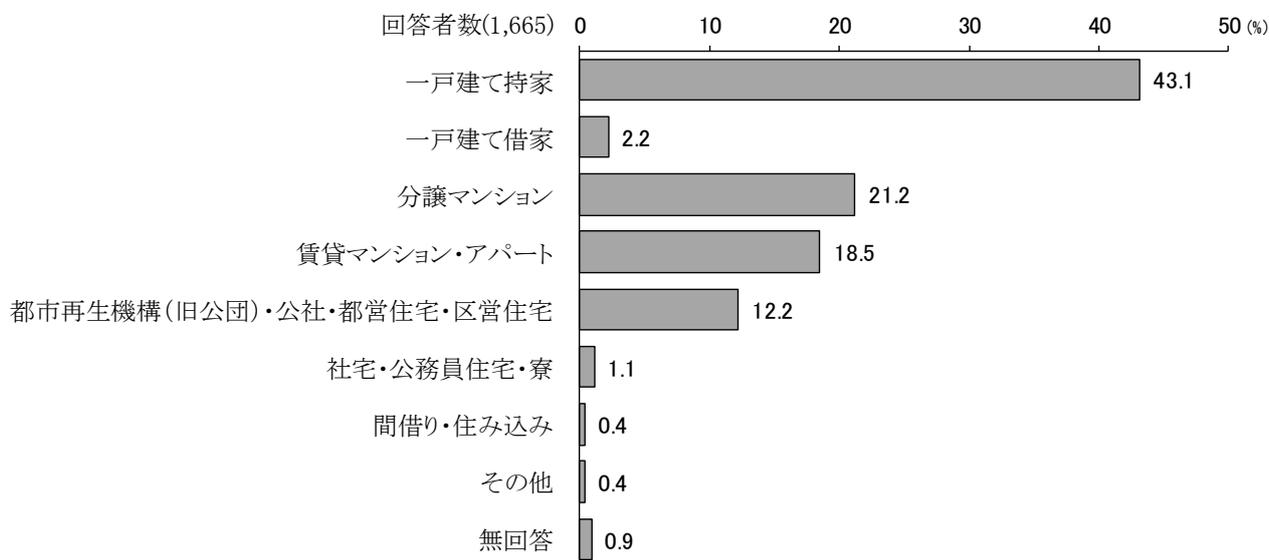
### F2 年齢



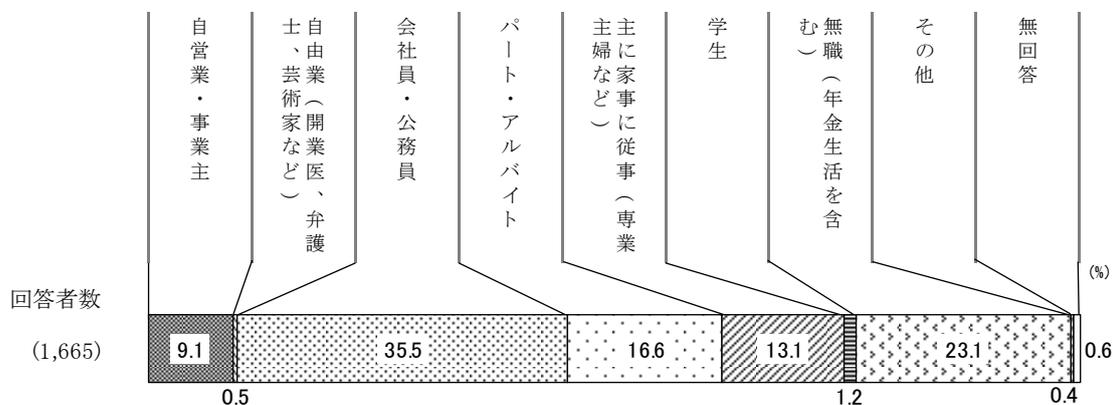
F 3 居住年数



F 4 住居形態

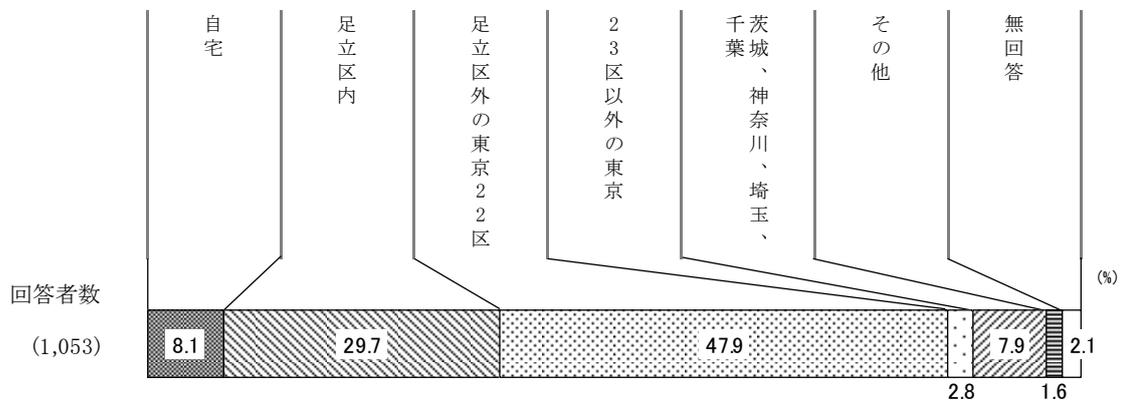


F 5 職業

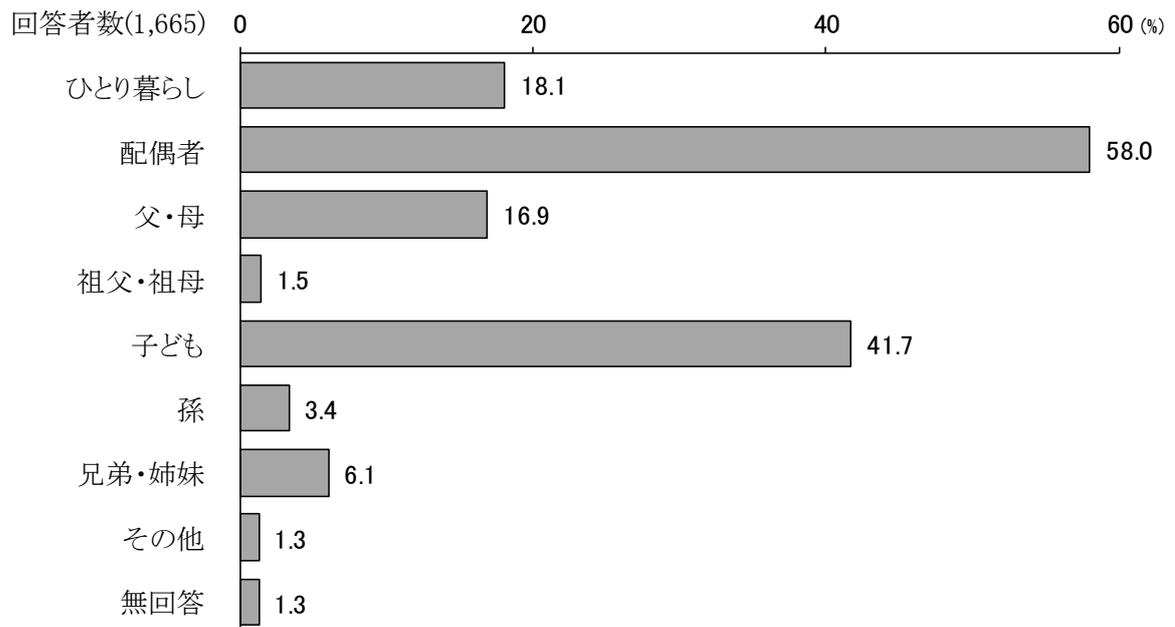


第1章 調査の概要

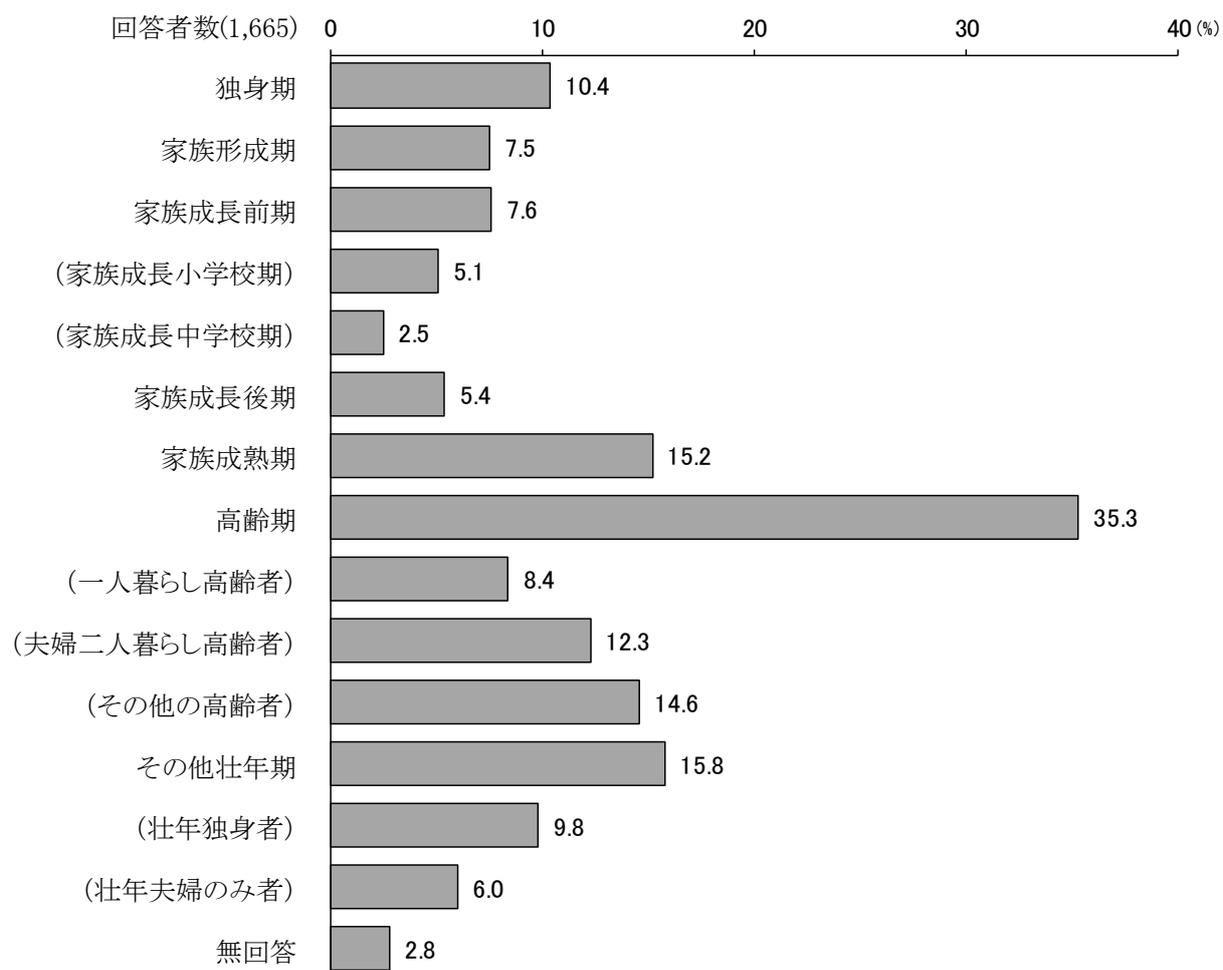
F 6 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】



F 7 同居家族（複数回答）



## F 8 ライフステージ





## 第2章 調査結果の要約



## 1. 定住性

居住地域の評価については、〈通勤や通学などの交通の便がよい〉〈普段の買い物が便利である〉〈快適で安全なまちである〉の3項目で、肯定的評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が半数を超えて多く、高い評価となっている。また、居住地域の状況について経年変化で聴取した設問では、〈ペットのふん〉と〈ごみやタバコのポイ捨て〉で【減っている】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）が半数を超えている。中でも〈ペットのふん〉では、【減っている】が前回の平成29年調査に比べて5.2ポイント増加している。

一方、居住地域の評価のうち、〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉では、否定的な評価（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が、平成24年の7割強からは減少傾向にあるものの、依然として6割弱と多くなっており、引き続き、区民の交通マナー意識の向上が求められる。また、全体では肯定的評価がほぼ7割を占めた〈通勤や通学などの交通の便がよい〉を地域別にみると、2つの地域で9割以上である一方で、第2地域、第8地域、第10地域、第14地域の計4地域では肯定的評価が5割以下にとどまり、地域差が顕著になっている。

地域の暮らしやすさへの評価をみると、【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかと言えば暮らしやすい」）との評価は、全体で8割強と例年と同様の高い水準となっているが、これを地域別にみると、第2地域と第14地域ではともに6割台と低くなっている。

【暮らしにくい】（「暮らしにくい」＋「どちらかといえば暮らしにくい」）と回答した人に、特に暮らしにくいと感じることを聴いた結果は、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」と「交通の便の悪いこと」がそれぞれ4割台半ばで並んで、これまでの例年と同様に、上位となっている。

また、【定住意向】（「ずっと住みたい」＋「当分は住みたい」）は8割弱と、例年と同様の高い水準を示しており、地域別にみても、全15地域で7割以上となっている。

居住地域の利便性や快適性、美化意識の向上は肯定的にとらえられ、全体としての暮らしやすさへの評価や定住意向は、高い水準を維持している。しかしながら、一部の地域では〈交通の便の悪さ〉が強く感じられており、それが暮らしやすさへの評価が低い水準にとどまっている要因のひとつと推察される。今後は、これらの地域差の解消を図るとともに、住民のマナー意識の啓蒙など、各種の取り組みを一層強化し、暮らしやすさへの評価をさらに向上させることによって、区民の定住意向をより強めていくことが必要となろう。

## 2. 大震災などの災害への備え

東日本大震災から約7年半が経過した平成30年調査時における、区民の防災意識や日頃の備えはどのようなになっているのだろうか。

備蓄や防災用具、買い置きなどの用意については、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は、今回は67.1%と、平成29年調査結果（64.8%）と比べてやや高い数値となっているものの、依然として、震災半年後の平成23年調査結果（73.6%）に比べて低い水準にとどまっている。

このように、震災直後に比べて、区民の防災への意識が低い状況は続いており、日頃からの区民の防災意識を高めていく取り組みの必要性は変わっていない。

備蓄や防災用具、買い置きなどの内容としては、「水」「あかり」「食料」が8割弱から8割台半ばと高くなっているのに対して、「医薬品（常備薬を含む）」は4割台半ば、「簡易トイレ」「救急セット」は2割台半ばにとどまっており、備蓄内容に大きな差がある状況に変化はみられない。

また、水と食料の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が「水」で4割台半ば、「食料」で5割弱と多くなっているのに対し、「1週間分以上」は「水」が1割強、「食料」が1割弱にとどまっている。

この結果は、例年の調査結果とほぼ同様であり、今後も、医薬品やトイレをはじめとして、備蓄内容をより充実させるとともに、水や食料の備蓄量についても、国の「最低3日分、できれば1週間分」という目標に少しでも近づくよう、区民の取り組みを促進していくことが重要である。

さらに、災害時の水や食料の確保について、「考えていない」という人が4割弱を占めている。また、「通常どおりスーパーなどで購入する」という人は33.3%と、平成28年（25.6%）から漸増する傾向にある。

このように、震災直後に比べて、区民の防災への危機意識が低下しつつあることがわかる。今後も、防災意識の希薄な層に対して、日頃から災害への備えをしてもらうように継続的な働きかけが重要である。

次に、家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は28.0%と、前回の28.4%とほぼ同様の結果となっている。

また、全体の7割弱を占める【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策をおこなっていない」）人たちのその理由としては、「面倒である」が3割弱と最も高くなっており、引き続き家具類の転倒・落下・移動の危険性について区民に啓発していく必要がある。

今回の調査では、地域の避難場所の認知状況をみているが、「知っている」は5割台半ばで、「なんとなく見当がつく」が3割強、「知らない」が1割強となっている。引き続き、「あだち防災マップ&ガイド」や「あだち広報」、スマートフォン対応アプリ「足立区防災ナビ」等のさまざまな情報媒体を活用して、区民の避難場所の認知度をさらに向上させていく必要がある。

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」「水・食料の備蓄の充実」の3項目が、いずれも6割弱から6割強に達し、上位3位を占めるという回答傾向に今回も変化はみられず、今後もこの分野への取り組みを推進する必要がある。

また、区民の半数以上が、大規模災害時に自宅に住めなくなった場合に避難生活を送る場所として「避難所」を想定していることを踏まえて、避難所における良好な生活環境の確保に力を入れていくことも重要である。

### 3. 洪水対策

『足立区洪水ハザードマップ』を【見たことがある】（「見て、自宅周辺の状況を理解した」＋「見たが、内容までは覚えていない」）は今回68.8%と、前回の65.1%よりも3.7ポイント増加して、初めて聴取した平成27年の52.8%以降、各年順調に伸びており、区民への周知が進んでいる現状がわかる。しかし、依然として「そのような地図は見たことがない」という人も多く、今後も、このマップの存在を広く区民に周知して、起こり得る水害を理解してもらうことが重要である。

次に、河川がはん濫し、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合の対処について、「避難する」の割合が高い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉（78.4%）が最も高く、以下〈近所の人々が避難しているのを見たとき〉で54.8%、〈自宅付近が浸水したとき〉で52.3%、〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉で32.3%、〈足立区に大雨・洪水警報が出されたとき〉で21.9%の順で続いている。各項目について「避難する」と回答した人の割合を、平成29年調査の結果と比較すると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉では3.0ポイント減少し、〈自宅付近が浸水したとき〉では3.8ポイント増加している。

また、荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されるが、その場合の最初の避難先としては、「自宅の高層階（3階以上）」が27.7%、「近くの学校や公共施設」が25.5%と、それぞれ2割台後半で上位となっており、平成27年以降の各年の調査結果と比べても大きな変化はみられない。一方で、「区外の親戚や知人の家」や「区外の浸水しない高台など」に避難すると答えた人はいずれも3%未満と少なく、広域避難の必要性について正しく理解されていない現状がうかがえる。

今後も、『足立区洪水ハザードマップ』の認知度と内容理解の一層の向上を図るとともに、荒川のはん濫時などの広域避難など、洪水が迫っている場合に区民が適切に対処できるよう、幅広い支援を行っていくことが課題である。

## 4. 区の情報発信のあり方

区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が今回70.5%と、平成25年の調査結果(79.7%)からは漸減傾向にあるものの、依然として高い水準を維持してトップにある。一方、「インターネット(区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック)」の比率は、平成25年の24.2%から年々上昇し、今回は31.4%と、「町会・自治会の掲示板・回覧板」(31.8%)とほぼ並ぶ結果となっている。年代別にみると、「あだち広報」および「町会・自治会の掲示板・回覧板」は、男女ともに60代以上の高齢層で高くなっている。一方、「インターネット(区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック)」は、男女ともに30代から50代で多く利用されている。

こうした状況を踏まえて、今後も「あだち広報」や「町会・自治会の掲示板・回覧板」のような紙媒体の重要性を認識し、その内容の一層の充実を図るとともに、インターネットを利用して自ら積極的に情報を得ようとする区民に対し、適切な情報を発信していくことが必要である。

次に、区が発信する必要がある情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」(58.9%)と「災害や気象に関する情報」(58.8%)が上位2項目となっており、以下「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」が50.9%で続き、概ね例年と同様な結果となっている。この結果を性・年代別にみると、「災害や気象に関する情報」が女性の40代と50代でともに7割に達して高く、「出産や育児、就学に関する情報」が男女ともに30代で5割台後半と高くなっている。

こうした情報が必要なときに得られているかを聴いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)は、平成25年から平成28年の4年間と今回の経年比較でみると、平成25年の60.5%から、今回72.4%へと増加している。また、【得られない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)は、平成25年の17.3%から、今回11.2%と漸減する傾向にある。これらの結果から、区民への情報提供は、徐々にではあるが確実に進んでいることがわかる。

しかしながら、依然として区民の1割強は、必要なときに区の情報が【得られない】と答えており、その主な理由としては、「情報の探し方がわからない」が3割台半ばと最も多く、「情報が探しにくい」が2割台半ばで続いている。

今後も、区からの情報が必要な時に【得られている】という層を増やし、【得られない】という層を減らしていくためには、多角的かつ効果的に行政情報を届けることが求められる。

なお、数は少ないものの、「区の情報に関心が無い」と答えた人も少数(4.3%)ながら存在するため、このような区民にどのように関心をもってもらえるかも今後の課題となろう。

## 5. 健康

『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が10.1%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(26.8%)を合わせた【知っている】は36.9%となっており、「知らない」が61.4%となっている。経年でみると、今回の【知っている】(36.9%)は、伸長の大きかった前回(40.0%)を下回るものの、平成28年調査の30.6%からは6.3ポイント増加しており、健康な生活を送るうえでの野菜摂取の重要性についての認識は区民の間に徐々に浸透してきている様子が窺える。

しかしながら、性・年代別にみると、男性の20代から60代および女性の20代では【知っている】が1割台半ばから3割と低くなっている。このように、区民の認知度には性別、年代による差があることから、区のキャッチフレーズの周知活動を一層推進していくことが重要である。

糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいなどについては、ここ数年の回答傾向と同様に、今回も「失明」「足の壊疽(えそ)」「口の渇き」「人工透析」などが高くなっているものの、「神経障がい(手足のしびれ)」や「網膜症」のような《重篤な合併症の兆候》を示すものについては、依然として2割強から3割弱にとどまっている。

糖尿病の予防には、“食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である”と言われているのに対し、「(野菜から)食べている」という人は65.3%を占めているが、経年でみると横ばい状況となっている。

また、野菜の摂取量については、“1日350g以上”が目標とされているが、実際に【できている】(「できている」及び「だいたいできている」)は、平成29年でやや増加したものの、今回2.7ポイント減少し、平成25年以降各年4割前後と大きな変化はみられない。さらに、性・年代別にみると、【できている】は、男性では70歳以上で4割台に達しているものの、他の年代では2割台半ばから4割弱と低く、女性でも20代では2割強と低くなっている。

今後も、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについて、継続して区民の理解を深めていくとともに、あらゆる性別、年代の区民に対し、糖尿病予防における野菜摂取の重要性を一層周知していくことが重要である。

次に、体調や習慣についてみると、〈現在の健康状態は良い〉が70.9%、〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉が66.7%とともに高い。また、〈習慣的にタバコを吸っている〉は19.3%で、平成25年以降、初めて2割を下回った。

また、健康維持のために実行している、心がけていることとしては、平成25年以降、「毎日朝ごはんを食べている」と「毎年健康診断を受けている」がともに6割を超えて高くなっている。今後も、健康づくりのために、区民に対して、食生活の改善、運動の実践、各種健診・検診の受診等に取り組んでいくよう促していくことが必要である。

とくに、今回、区民のがん検診についての意識をみているが、「忙しくて、平日は受けられない」が24.5%、「自分が対象かどうかわからない」が18.7%、「がん検診を申し込む手続きが面倒である」が17.9%で上位となっており、区のがん検診を実施する上で、さまざまな課題があることがわかる。今後は、区民のがん検診を受けやすい環境を整備し、受診率の向上を図っていくことが重要である。

## 6. スポーツ

日常的な運動・スポーツの実施状況をみると、「30分以上の運動を週2回以上」（18.9%）が2割弱で、以下「年に数回（時間は問わない）」までを含めた【運動している】（53.8%）は5割台半ばに達するものの、「運動・スポーツはしていない」（40.0%）も4割を占めており、ほぼ前回までと同様の回答分布となっている。性・年代別にみると、「30分以上の運動を週2回以上」している人は、男性では60代と70歳以上で、女性では60代で、それぞれ2割台半ばと高くなっている。

【運動している】と回答した人に、継続的に実施している運動・スポーツを聞いた結果は、「ウォーキング」が48.8%で最も高く、続いて「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」（19.6%）となっている。この結果を、性・年代別にみると、「ウォーキング」は男性の70歳以上で60.7%と高く、「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」は女性の60代で39.5%と高くなっている。また、運動・スポーツの実施場所については、「自宅周辺」（38.6%）と「自宅」（22.3%）が上位2項目にあげられている。

これらの結果から、男女ともに高齢層で、継続的かつ定期的な運動の重要性がより強く認識されるようになり、自宅を含む周辺地域で気軽にできる運動が好まれる傾向にあると推察される。

2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック大会以後、パラリンピックが注目されているが、障がい者スポーツについて、どのようなことをしてみたいかを聞いた結果は、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」と回答した人が18.8%で最も高いものの、「特にない」（45.1%）と「わからない」（21.6%）もそれぞれ多い。

また、スポーツボランティア活動について、どのようなことをしてみたいかを聞いた結果では、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」（8.0%）と「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」（6.1%）が上位にあがるものの、いずれの項目も少数にとどまり、「特にない」が56.4%と半数を超えて多く、「わからない」（20.2%）も2割となっている。

さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があることでは、「交通網・交通インフラの整備」が23.8%で最も高く、以下「会場での応援活動」（15.9%）、「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」（13.0%）の順で続いている。一方、「特にない」は35.0%となっている。

次に、オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無について、「ある」（19.2%）と回答した人は2割弱で、「今までの活動を継続」と回答した人は5.4%となっている。一方、新たに始めたい活動は「ない」と回答した人が、7割強を占めている。性・年代別にみると、「ある」との回答は、男性では20代と30代で、女性では20代から40代で、それぞれ3割前後と高くなっており、若年層で活動への意欲が高まっている様子が窺える。

新たに始めたい活動が「ある」、または「今までの活動を継続」と回答した人に、その活動の内容を聞いたところ、「スポーツをする・スポーツ観戦する」が71.4%で最も高く、「ボランティア活動」（25.7%）、「語学（英語等）」（24.9%）、「文化活動をする・伝統文化などを観る」（22.5%）がそれぞれ2割強から2割台半ばの僅差で並んでいる。この結果を性・年代別でみると、「スポーツをする・スポーツを観戦する」は男性の30代および女性の20代と30代の若年層で、「ボランティア活動」は女性の40代以上の中年層・高齢層で、「語学（英語等）」は女性の20代と40代で、「文化活動をする・伝統文化などを観る」は、女性の20代と男女の70歳以上で、それぞれ高くなっている。

新たに始めたい活動が「ない」と回答した、全体の7割強を占める人たちに、どのようなきっかけがあれば初めてみようと思うか聞いたところ、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」(9.8%)と「スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供」(9.3%)がそれぞれ1割弱となっている。一方、「始めようとは思わない」が6割台半ばを占めて多くなっている。

今後は、障がいの有無に関係なく、だれもが気軽に運動・スポーツができる環境をさらに充実させていくとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、あらゆる年代の区民の興味や関心を引き出すようなイベントの開催や情報の発信など、区の取り組みを一層促進させ、大会後のレガシーに繋がるような施策を展開していくことが必要であろう。

足立区の温水プールやスポーツ施設を高齢者が無料で使用できる制度(高齢者免除制度)については、35.3%が何らかの制度改正を望んでいるものの、「現行のまま継続するべき」が44.0%で最も高くなっている。

## 7. ビューティフル・ウィンドウズ運動

足立区独自の犯罪抑止運動である『ビューティフル・ウィンドウズ運動』については、【知っている】（「知っている、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）は今回43.8%と、ピークだった平成28年調査の47.6%から2年続けて微減している。加えて、【知っている】の比率は地域や性・年代で差が大きい上に、「知っている、活動を実践している」区民は、最近3年間ともに5.0%以下である。今回も前回同様、いずれの地域、性・年代でも1割に満たない状況にあり、今後の参加意向も総じて低めにとどまることを踏まえると、これまで以上に、この取組みへの認知と理解を広めていくとともに、区民の活動への参加を促進していくことが重要である。

『花のビュー坊プレート』と『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況については、「すでに使用している」は1.8%と0.7%で、ともに極めて少数となっており、【知っている】（「すでに使用している」＋「見たことがあり、名称なども知っている」「見たことはあるが、名称などは知らなかった」＋「名称などは知っているが、見たことはない」）でみても、28.2%と25.2%でともに2割台後半にとどまり、区民への認知度はまだ低く、玄関先や店先で花を育てる人を増やすために、今後も、継続的に周知と利用促進を図っていくことが求められる。

一方、足立区内の刑法犯認知件数がピーク時から1万件以上減少していることを「知っている」人は36.0%と3割台半ばとなっている。（設問文に変更があったので、経年比較は行っていない）

また、居住地域の治安状況については、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が今回53.4%と、前回の54.3%を僅かながら下回っているものの、平成28年以降の最近3年間は53～54%レベルで推移しており、区民の体感治安は一定の良好レベルで安定してきている様子が窺える。

しかし、治安状況に対する評価には地域差が大きいほか、30代の男女や20代女性では【悪い】との評価も4割から5割強と多めで、今後も、地域や性別、年代にかかわらずすべての区民が安心して生活できるよう、ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロール等に取り組んでいくことが必要である。

治安が【良い】と評価した人のその理由については、過去5年間の調査結果と同様に「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が52.4%で最も高くなっている。

また、治安対策として区に力を入れてほしいことについても、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が今回56.4%と、前回より4.2ポイント伸びて、平成25年以降続けてトップを維持しており、防犯カメラに対する区民の期待は極めて高い。これに次いで「安全に配慮した道路、公園の整備」と「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」もともに4割弱で高くなっている。

一方、治安が【悪い】と感じる人のその理由では、今回も「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」が56.9%で突出しているが、前回の61.1%と比べると4.2ポイント減少している。

前述したように、居住地域の治安状況が【良い】と評価する区民は過半数を占めて、治安改善への区の取り組みは着実に成果をあげていると考えられるが、治安が【悪い】という人も28.7%と3割弱みられ、30代の男女や20代女性を中核に、依然として悪いと評価されている面もある。

今後も引き続き足立区を安心安全な街にしていくために、防犯カメラや街路灯の設置促進などの取組みに力を入れていくとともに、治安向上に資する施策などを通じて、区民の協力も得ながら官民が一緒に力を携えて足立区を安心安全な街に協創していくことが重要である。

## 8. 環境・地域活動

環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」が、今回も87.6%と最も高く、平成23年以降各年僅かな増減はあるものの、常に8割を超えており、「ゴミの分別」が区民の間にほぼ定着したことがわかる。また、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」も今回52.0%で、ここ数年5割を超えて次点となっているが、今回3位の「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は今回45.8%で、前回の52.6%より6.8ポイント減少しており、ここ8年間の経年でみても明らかに漸減傾向にある。

今回、「食品ロス」という言葉の認知を聴いているが、「知っている」は76.8%に達しているものの、その認知率は男女ともに50代以上の中高年齢層を中心に年代が高まるほど高くなる傾向がみられ、男女ともに20代の認知率は5割台にとどまっている。なお、知っていると回答した人に“食品ロス削減のために心がけていること”を聴いた結果は、「残さず食べるようにしている」が75.4%で最も高く、この結果には性・年代別の差もあまりみられない。

次に、この1年間に参加した活動をみると、具体的な活動内容としては、ここ数年と同様に「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、今回も17.2%で最も高くなっており、そのほか「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」「町会や自治会の運営に関する活動」「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」なども1割を超えている。一方、「特に参加していない・特にない」は今回43.7%と前回より5.5ポイント増加しているが、同時に「無回答」が今回16.1%と前回より4.6ポイント減少しており、この両者を合わせた比率は、今回が59.8%、前回は58.9%で、ほとんど同レベルにある。

次に、今後の活動への参加意向をみても、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」(22.0%)が2割強で最も高いものの、「特に参加していない・特にない」(33.3%)と「無回答」(23.4%)が合わせて6割近くを占めるなど、この1年間に参加した活動の結果とほぼ同様の傾向が示されている。

## 9. 「孤立ゼロプロジェクト」など

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況をみると、【知っている】（「知っていて、内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）は今回28.2%で、平成29年調査結果の28.7%とほぼ同率となっている。【知っている】は、地域別では第10地域、第11地域、第14地域でいずれも3割台半ばから4割弱を占めてやや高く、性・年代別では男女ともに高齢層ほど高くなる傾向がみられ、地域や年代によってかなりの差がある。

また、「地域包括支援センター」の認知状況については、【知っている】（「知っていて、業務内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」）が今回53.6%で、前回の53.7%とほぼ同率ながら、経年でみるとここ数年の微増傾向を維持している

さらに、高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向をみると、【協力したい】（「積極的に協力したい」＋「負担にならない範囲で協力してもよい」）は今回17.5%と、前回の19.4%より微減しているものの、経年では平成25年以降各年2割弱で横ばい状況にある。性・年代別でみると、【協力したい】が2割を超えているのは、男性の70歳以上と女性の50代、60代、70歳以上の計4年代層のみで、男性の40代と50代や女性の30代と40代では「協力したいが、時間などに余裕がない」という回答が、それぞれ5割前後を占めて多くなっている。

協力意向のある人では、その活動内容として、これまで同様「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」が最も高く、今回は56.2%と前回(49.5%)より6.7ポイント増加し、次点の『「世間話をする頻度」や『困りごとの相談相手』などを調査する活動』も、今回40.8%で、前回(34.4%)より6.4ポイント増加している。

以上のように、地域包括支援センターの認知度は、漸増傾向を維持して5割台半ば近くに達しているものの、孤立ゼロプロジェクトの認知度は、最近2年間は3割に届かずに伸びはみられず、高齢者の孤立防止・見守り活動への協力意向も、平成25年以降2割弱で推移して大きな変化はみられない。地域福祉を推進する上で、これらの取り組みは極めて重要な役割を果たすものであり、今後も、区民の事業に対する認知度の向上に継続的に強く取り組むとともに、活動への積極的な参加を促進していくことに資する環境の整備や参加へのハードルを下げる工夫などが必要である。

## 10. 協働・協創

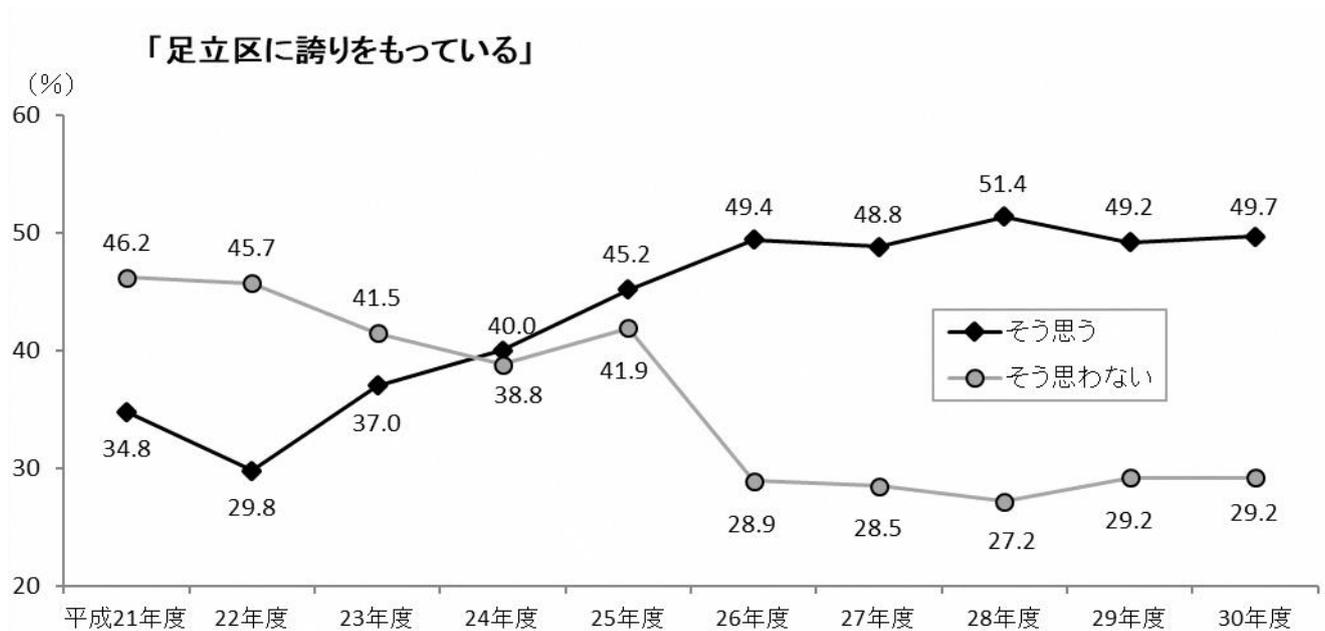
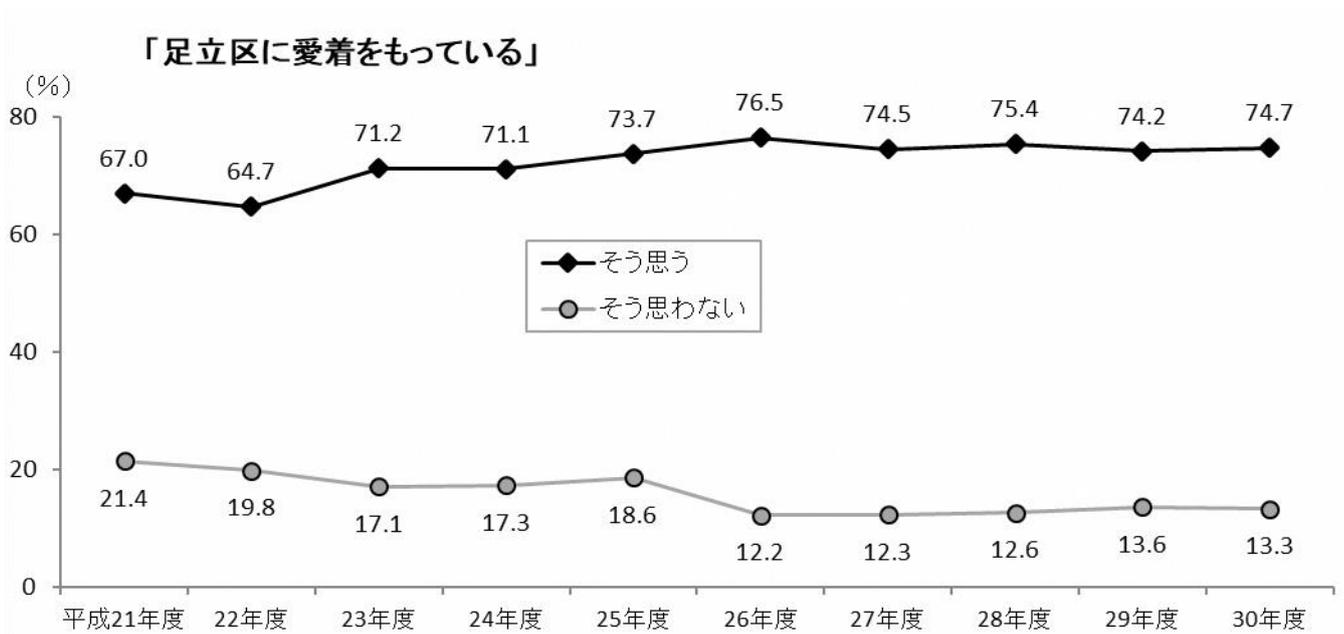
「協創」について2年目の聴取となる今回、「知っている」は3.5%で、これに「聞いたことはある」(9.7%)を合わせた【知っている】は13.2%で、前回(13.0%)とほぼ同率となっている。一方、「知らない」は今回84.3%で、こちらも前回の84.5%と変わらず、「協創」という言葉・内容についての区民の認知度は依然として低いままで、今後も引き続き、この考え方について広く区民の周知を図っていくことが必要である。

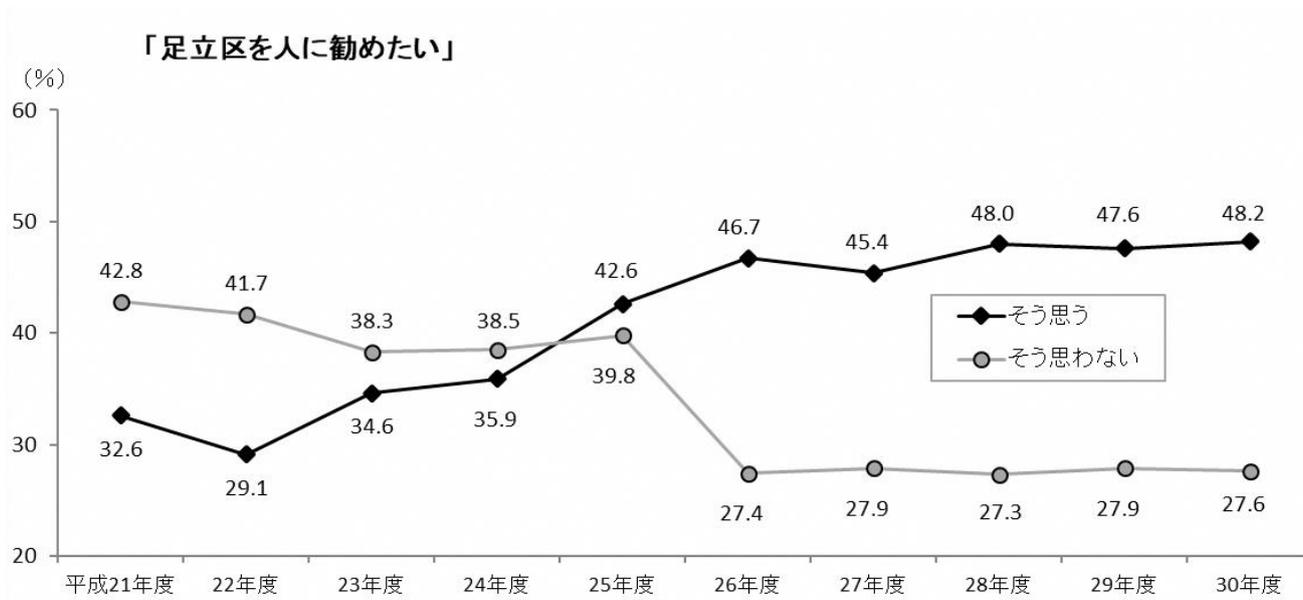
次に、全体の1割強に相当する「協創」を知っていると回答した人の協働・協創の実践状況を見ると、今回は、「すでに、活動を実践している」が32.8%、「関心はあるが、特に活動していない」が55.2%、「関心がない」が10.3%で、前回と比べると“協働・協創に関心あり”の人の割合は増加しており、こうした区民の関心を「協働・協創」の活動へと誘導していくことが重要である。

最後に、「協働・協創による事業が進んでいると思うか」については、今回、【そう思う】(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)が16.5%となっているが、【そう思わない】(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)が21.0%で、【そう思わない】という人の方がやや多く、加えて「わからない」という回答も56.0%で5割台半ばと多いことから、協働・協創による事業の内容やその進捗状況を、「わからない」と答えた区民へ具体的に示し、広く知ってもらえるようにする工夫が求められる。

## 1.1. 区の取り組み

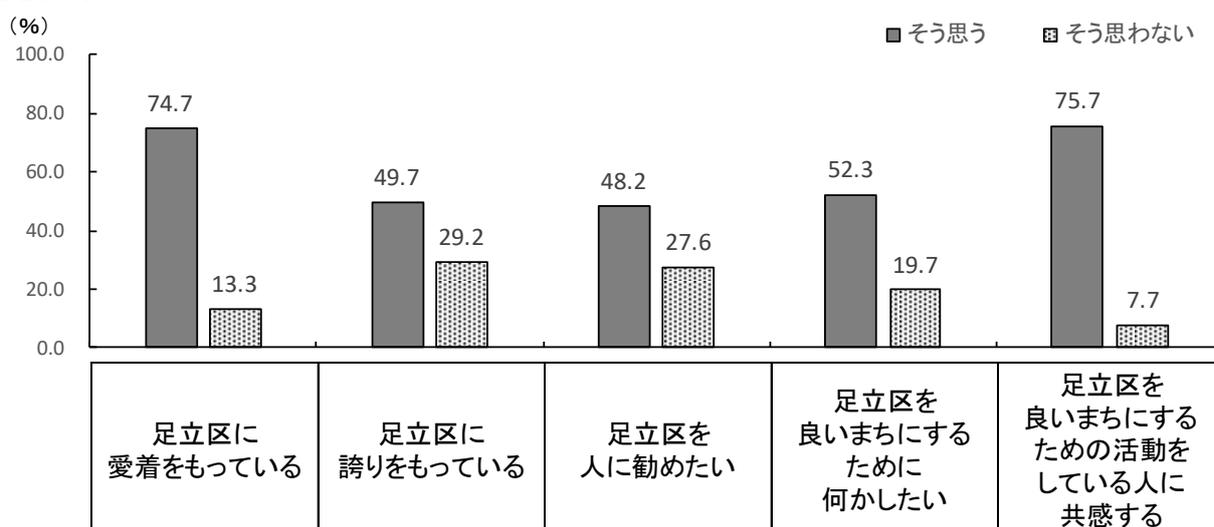
平成21年調査から今回の平成30年調査まで10年に亘って経年で聴取している〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目について、今回の結果を【そう思う】（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）の比率でみると、〈足立区に愛着をもっている〉は74.7%、〈足立区に誇りをもっている〉は49.7%、〈足立区を人に勧めたい〉は48.2%となっている。今回も、3項目とも前回より僅かながら比率を伸ばして、平成26年以降の最近5年間は高い水準で安定しており、区に対する愛着が、区民に広く根付いてきていることを示す結果となっている。





また、今回の平成30年調査から新たに聴取項目に加わった〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の2項目も、【そう思う】がそれぞれ52.3%と75.7%と、前述の3項目に並ぶ高い水準となっている。さらに、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と思っている人は、男性では40代を、女性では60代を筆頭にしながらも、男女ともそれぞれ大きな年代差はみられていない。これらの結果から、“愛着のある足立区をさらに誇りを持てる良いまちにするために何かしたい”と考えている区民が半数以上に達していることは、これまでの区の様々な取り組みと区民や様々な団体、民間事業者の活動が相乗効果を発揮し、一定以上の成果を示している結果の反映ととらえることが出来よう。

回答者数(1,665)



## 第2章 調査結果の要約

今回新しく追加された2項目のうち〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と、〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉、もうひとつの新規項目である〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉、および〈区政満足度〉の5項目との関係を、下記のクロス集計表で確認すると、これらの5項目で【**そう思う**】と回答している人では、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と思う人がそれぞれ多くなっている。中でも、〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉では、ともに7割弱と高い水準に達していることから、今後も区民が“人に勧めたい”と思う、“誇りが持てる”ような区にしていくことで、足立区のために活動したいと考える人がさらに増えていくものと推察される。

		足立区を良いまちにするために何かしたい		
		回答者数	そう思う(計)	そう思わない(計)
<b>全 体</b>		1665	52.3	19.7
足立区に愛着をもっている	そう思う(計)	1243	<b>61.1</b>	16.9
	そう思わない(計)	222	34.2	<b>45.9</b>
足立区に誇りをもっている	そう思う(計)	828	<b>68.6</b>	13.6
	そう思わない(計)	487	45.2	<b>37.4</b>
足立区を人に勧めたい	そう思う(計)	802	<b>69.6</b>	15.5
	そう思わない(計)	459	45.1	<b>36.8</b>
足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する	そう思う(計)	1261	<b>66.9</b>	15.2
	そう思わない(計)	128	10.9	<b>82.0</b>
区政満足度	満足(計)	999	<b>61.6</b>	18.4
	不満(計)	398	45.2	<b>29.1</b>

(%)

※濃いグレーに白字：全体に比べて10ポイント以上高い  
 ※薄いグレーに黒字：全体に比べて5ポイント以上高い

次に、地域の暮らしやすさへの評価や定住意向については、すでに一定のレベルに達しながら、今回も微増しており、区政全体に対する満足度も【満足層】（「満足」＋「やや満足」）が60.0%と、平成25年以降最高だった前回（61.5%）を除くと、平成28年以前の4年間を上回る高い評価を得ている。

なお、今回調査においても、平成28年と29年調査と同様に、区の各分野への取り組みへの現状評価（満足度）と重要度の関係を数値化（算出方法の詳細は293頁を参照のこと）してみると、足立区の場合、“重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）が平均値より低い”分野、つまり、今後、重点的に取り組む必要のある分野が、「防災対策」「交通対策」「治安対策」「高齢者支援」「障がい者支援」「行政改革」「都市開発」であるとの結果は、前2回とほとんど変わっていない。

しかし、平成29年以降、多くの分野において【満足層】（「満足」＋「やや満足」）が、平成28年以前の調査結果を上回っており、「子育て支援」「学校教育対策」「資源環境対策」「自然・緑化対策」などの満足度の高まりが、最近2年間の区政全体への評価の向上につながっているといえる。

また、区政全体に対する満足度と、区への愛着、誇り、そして「足立区を人に勧めたい」「足立区を良いまちにするために何かしたい」といった区への思いとの間には正の相関も認められる。

今後も、「防災対策」「交通対策」「治安対策」「高齢者支援」「障がい者支援」「行政改革」などの区の重点的課題の解決に、行政と区民、関係機関が連携し、総合的かつ効果的な取り組みを推進することによって、区民の区政全体への満足度の向上を継続し、足立区を、すべての区民が愛着と誇りをもって、より良いまちにするために何かしたいと思える「まち」に発展させていくことが求められよう。

## 区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

### 1 足立区に愛着をもっている

全体	26年	27年	28年	29年	30年
	76.5	74.5	75.4	74.2	74.7

(%)

男性	26年	27年	28年	29年	30年
20代	77.0	82.0	66.7	68.4	74.6
30代	77.2	67.3	67.7	74.5	65.1
40代	76.6	76.5	74.8	75.7	77.5
50代	80.6	73.0	82.1	82.9	76.0
60代	76.6	77.7	82.6	69.3	81.4
70以上	85.9	76.0	82.4	81.6	76.9

女性	26年	27年	28年	29年	30年
20代	67.1	67.5	66.3	72.5	64.9
30代	77.6	69.0	66.7	66.9	74.5
40代	71.4	75.1	73.5	73.5	71.0
50代	68.7	74.7	75.7	74.0	74.7
60代	76.9	77.1	73.9	77.3	72.0
70以上	76.5	76.5	80.0	74.6	78.1

### 2 足立区に誇りをもっている

全体	26年	27年	28年	29年	30年
	49.4	48.8	51.4	49.2	49.7

男性	26年	27年	28年	29年	30年
20代	44.3	54.1	44.9	36.8	50.8
30代	47.5	37.6	47.5	42.9	31.4
40代	50.6	48.8	51.9	54.9	51.2
50代	50.4	47.6	52.7	57.7	51.9
60代	51.5	52.2	59.7	46.0	54.3
70以上	65.9	63.0	68.2	59.9	62.3

女性	26年	27年	28年	29年	30年
20代	35.4	37.7	33.7	34.8	33.8
30代	38.8	40.1	41.5	34.7	41.8
40代	42.3	42.8	42.7	47.1	36.6
50代	38.1	39.9	45.1	41.6	48.8
60代	50.0	51.4	50.3	58.2	44.8
70以上	57.3	57.7	60.0	55.5	63.9

### 3 足立区を人に勧めたい

全体	26年	27年	28年	29年	30年
	46.7	45.4	48.0	47.6	48.2

男性	26年	27年	28年	29年	30年
20代	62.3	44.3	43.6	42.1	59.3
30代	49.5	36.6	48.5	49.0	47.7
40代	49.4	51.2	55.6	56.9	51.9
50代	48.2	49.2	50.9	52.0	53.5
60代	46.1	48.9	54.2	38.0	50.4
70以上	55.1	54.0	59.1	55.3	53.8

女性	26年	27年	28年	29年	30年
20代	39.2	32.5	41.6	43.5	36.4
30代	42.5	41.5	40.0	42.4	48.2
40代	43.9	41.3	42.7	47.6	37.2
50代	40.3	39.9	47.9	42.2	47.5
60代	42.9	45.7	43.0	53.2	44.8
70以上	46.3	50.0	49.0	47.3	49.8

## 4 足立区を良いまちにするために何かしたい

全体	30年	52.3 (%)

男性	30年
20代	45.8
30代	52.3
40代	60.5
50代	57.4
60代	46.5
70以上	53.8

女性	30年
20代	41.6
30代	54.5
40代	52.5
50代	52.5
60代	59.4
70以上	48.5

## 5 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

全体	30年	75.7 (%)

男性	30年
20代	64.4
30代	76.7
40代	76.7
50代	78.3
60代	75.2
70以上	74.5

女性	30年
20代	61.0
30代	79.1
40代	80.3
50代	79.0
60代	82.5
70以上	71.7

区政満足度の分析 経年比較／暮らしやすさ／定住意向／情報の入手／治安

全体	26年	27年	28年	29年	30年
満足	53.2	53.3	57.7	61.5	60.0
不満足	27.6	27.4	25.6	24.0	23.9

(%)

1 地域の暮らしやすさと区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
暮らしやすい	3.7	13.8	2.2	0.5	4.6
どちらかといえば暮らしやすい	2.0	34.7	11.4	1.4	7.7
どちらかといえば暮らしにくい	0.2	4.5	5.1	1.2	2.1
暮らしにくい	0.1	0.2	0.8	0.8	0.4

2 定住意向と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ずっと住みたい	3.6	21.1	4.9	1.0	6.5
当分は住みたい	2.0	24.1	8.5	1.0	6.0
区外に転出したい	0.2	2.5	2.5	1.1	0.9
わからない	0.2	5.6	3.7	1.0	2.3

3 必要な時に必要とする区の情報の入手状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
十分に得られている	1.3	1.9	0.3	0.0	0.5
ある程度得られている	3.6	42.0	12.5	2.0	8.2
得られないことが多い	0.2	3.1	2.8	0.7	2.4
まったく得られない	0.1	0.3	0.3	0.5	0.8
必要と思ったことがない	0.5	4.1	2.6	0.6	2.3
区の情報に関心がない	0.1	1.9	1.1	0.3	0.8

4 居住地域の治安状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
良い	1.6	4.1	0.7	0.1	1.3
どちらかといえば良い	2.6	29.0	7.7	1.0	5.3
どちらかといえば悪い	0.8	12.3	6.5	1.7	3.0
悪い	0.2	1.4	1.9	0.6	0.3
わからない	0.8	5.9	2.7	0.6	4.2